

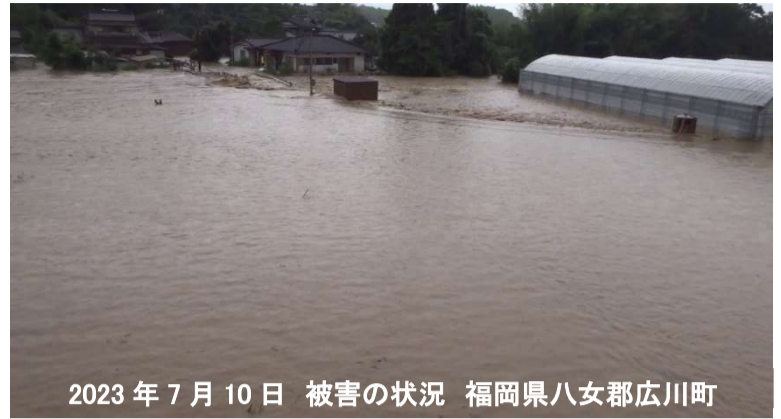
減災への第一歩 「雨庭」

山からの水を雨庭へ

■裏山から大量の雨水対策は？

2023年7月10日、福岡県南部では梅雨前線の影響で記録的な豪雨が発生し、特に朝倉市や久留米市などで甚大な被害が発生しました。八女郡広川町でも、広川が氾濫し護岸の崩壊や家屋の倒壊が確認されました。

実は、この時の水害は、広川の氾濫だけでなく家屋の裏山から、大量の水が流れ込み、浸水被害の原因となっています。



2023年7月10日 被害の状況 福岡県八女郡広川町

「雨庭」の提案

全国トース技術研究組合では、山からの浸水被害を減らす対策として、グリーンインフラの手法の一つである「雨庭」を提案します。

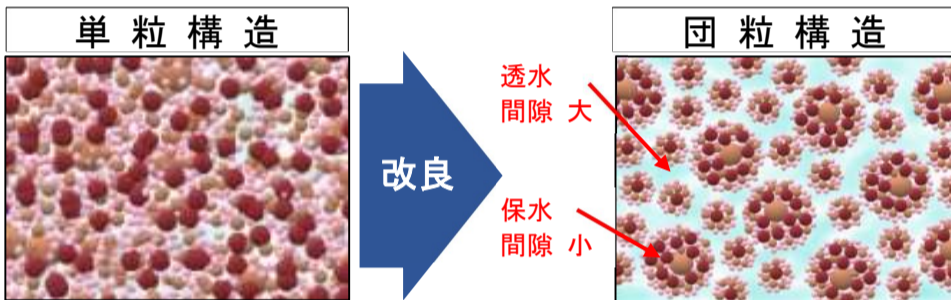
特徴

1. 団粒化した土(トース土)を使用します。(水の浸透が良く、保水性もあります)
2. 施工が簡単です。
3. ガーデニングにも使えます。

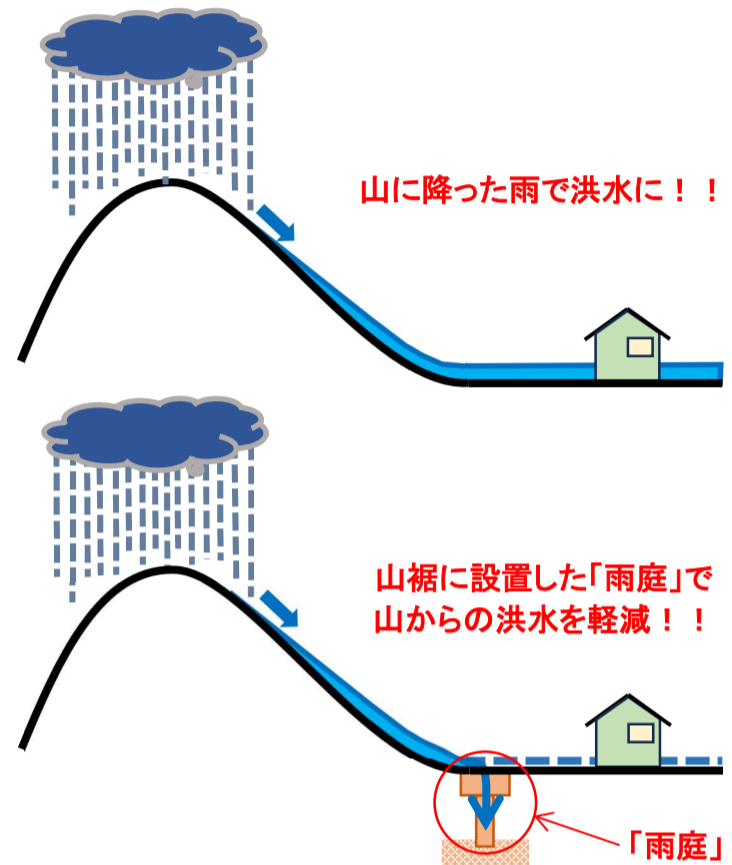


袋入り(8L)

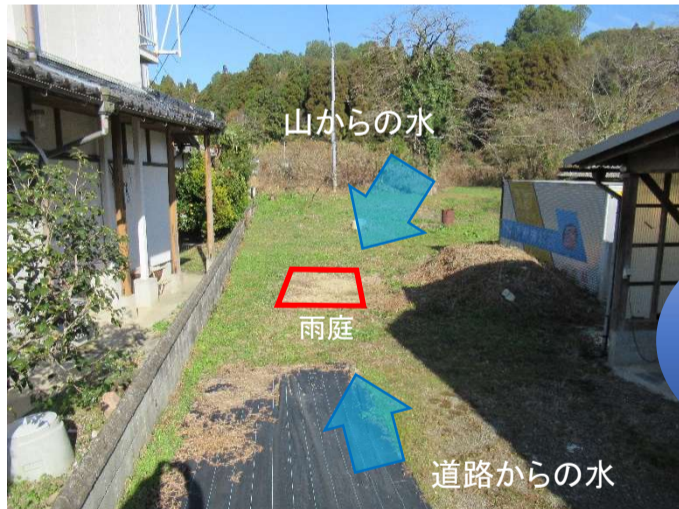
■団粒化した土(トース土)のイメージ



団粒構造に改良した土は、微粒子が立体的に結合し、様々な大きさの間隙ができます。大きな間隙で水を通し、細かな間隙で水を保水します。



雨庭施工例



「雨庭」を設置した場所が粘性土で、浸透性が悪かったので、縦に3本穴をあげ浸透性を確保しました。

